

# 『一生懸命』幻の新座市議会報告第212弾!



たかむらともや

## （お） プーチン！！

ロシア軍のウクライナ侵攻が続いています。異常なプーチンがウクライナの人々を傷つけ、そして殺し続けています。

病院を爆撃し、女性や子ども達が避難していた劇場を爆撃し、多くの女性や子ども達を殺し続けています。無差別の市民虐殺は東京大空襲や広島長崎の原爆投下を思い出させます。

プーチンを世界中の多くの人が嫌いになるのは当たり前です。大嘘つきだからロシアにだって「プーチンの馬鹿は嫌い」という人は沢山いるでしょう。でも、1人の馬鹿のせいで、「ロシア人」という括りで否定することは間違っています。僕だって、日ソ不可侵条約を一方的に破棄したソ連は大嫌いです。汚い手口で占領した国後・択捉・色丹・歯舞の北方領土が日本に返還されることはないかも知れません。

だから、ロシアという国は好きになれないかも知れない。でも、ロシアにも素敵な人は沢山いる筈です。プーチンのせいで、多くの人たちを否定したくありません。

考えたくもありませんが、ウクライナ侵攻に対する欧米の反応を見て、中国は台湾を占領しようとするかも知れません。

その時の反応次第では次に日本が標的になる可能性だってあります。それでも…

プーチンが何をしようと、それで全てのロシア人を否定したくはないのです。

環境破壊、温暖化が問題になっていますが、一番の環境破壊は「戦争」です。

プーチンは戦争をし、ウクライナの原発まで爆撃したのですから、本物の馬鹿です。化学兵器に核施設攻撃…どこまで地球を汚せば気が済むのか…。

プーチンの馬鹿が近隣の国の独裁者たちに移らないことを祈ります。

2022年3月31日発行



3月20日の川掃除は若い人たちが沢山来てくれました。嬉しかったなあ…。

## たかやんのプロフィール



本名たかむらともや  
東京青山生まれ。  
新宿区立西戸山中  
石神井高、北海道大  
水産学部卒。

1977年新設の新座  
五中に赴任、新座五  
中・六中・二中で国語・数学 英語・理科・  
体育と複数の教科を教える。

五中・六中硬式テニス部は関東・全国大  
会で大活躍。退職後カナダ、アメリカへ。

帰国後石神二丁目で「たかやん塾」を開  
校。新堀1丁目、石神三丁目と移転し、現  
在に至る。中学生を中心に小中高校生と  
共に学ぶ。塾には学年トップの子もいれ  
ば、クラスで最下位、不登校の子もいる。

どんな子であっても「担任の予想」を裏  
切って進学させるのが僕の生きがい。

今年多くの子達がその予想を遥かに裏  
切って自分の力で道を拓いていった。

写真はこの4月、法大4年生になる娘の  
美咲。勿論、たかやん塾の卒業生。

たかやんの連絡先

自宅・塾

042-456-8869

takayanchan@outlook.jp

携帯 090-6497-5737

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

## ③ オンライン授業

今回的一般質問で「オンライン授業」は出席にカウントすべきだという質問をしました。県教委からの通達では「出席停止」になると決められているからです。

市内の中学校の中には「オンライン授業」に参加すれば「出席」と認める…どう見ても、そう受け取れる連絡を保護者にしている学校もありましたが、市内6つの中学校では全て「出席停止」が基本であるということが答弁でわかりました。

そこで、高校に提出する内申について、突っ込んだ質問をしたところ、**オンライン授業は「出席停止」とは記載しない**ことが確認されたのです。内申には「欠席日数」はあっても「出席日数」はありませんので受験生たちがオンライン授業で不利になることはないのです。

非常に微妙で曖昧な表現でしたので、それが確認できたことは大きかったです。

## ③ ワクチンの正体

この3月議会でも「接種対象年齢を引き下げていくことには違和感しかない。」と若年層へのワクチン接種に対して、反対の質問をしました。

このワクチンは**未だに治験段階**です。多くの医療関係者が

1. このワクチンは感染を予防しない。
2. 重症化を予防するのは一瞬で6か月を過ぎると、逆に死亡率が跳ね上がる。
3. 免疫力をさげるので、あらゆる病気にかかりやすくなり、死にやすくなる。

これと同様の見解を述べています。4回目の接種が進んでいるイスラエルで死亡者が増えているのも分かります。

それなのに、日本のテレビは相変わらず「死亡者数が増えているからワクチン接種を」「お年寄りを守るために子ども達にもワクチン接種を」と訴えています。**子ども達には全く必要のないワクチン**ですよ。

亡くなつたお年寄り達は、複数回ワクチンを接種していた筈ですから……。

## ③ 先生の目2

「ブラック校則」が危険なのは、子ども達の「人権を無視した生徒指導」をし、子ども達を傷つけてしまうからです。そういう生徒指導をしていると、その校則を守らせることが目的になってしまい、「外見」で子ども達を見る「癖」がついてしまうのです。

その癖がつくと、若い先生達も「先生の目」を失っていきます。実は、それが一番怖いのです。

**「外見で子ども達を見る癖」が一度ついてしまうと、二度と「先生の目」を持つことができなくなるからです。**

若いうちから、頭髪とか、スカートの長さとか、靴下の色とか、靴だとか…化粧だとか…そういう下らない「外見」に目が行くようになると…子ども達の目の奥にある「悩み」や「悲しみ」そして、「可能性」に目が行くことは無くなります。

「先生の目」を持たない教師達は平気で「いじめはありませんでした。」「気がつきませんでした。」と言います。「先生の目」を持たない教師が校長になれば、「原因は学校にはありません」「家庭にあるのでは」といいます。「先生の目」を持たない教師が教育委員会へ行けば、教育委員会でもまた「学校ではいじめは確認されなかつた」と平気で学校や教師を庇います。だから怖いのです。

「ブラック校則」は「ブラック教師」を育てているのです。あなたの学校に「ブラック校則」があつたら直ぐに無くす努力をしてください。あなた方が「ブラック教師」になる前に……。

僕らは自由な時代の都立高校で育ちましたが、当時の友達はみんな立派な社会人になっています。どうしても、取り締まりがしたいのなら、「警察官」「麻薬捜査官」になって、悪い奴らに立ち向かってください。あなた方の目の前にいるのは、「凶悪犯」じゃない。無限の可能性を秘めた子ども達なのです。そういう子ども達をブラックに染めていい訳がないんです。

